

母の日の”ありがとう”伝えるカーネーション 日本一の産地・西尾市で4月下旬より出荷ピーク

JA 西三河管内の西尾市では、5月8日の母の日に向けて、カーネーションの出荷が最盛期を迎えます。西尾市は年間生産量 2,280 万本と、日本一のカーネーション産地(市町村単位)です。

出荷ピークは4月下旬から5月上旬にかけての約2週間。この間に、JA西三河の営農センター3か所では約250万本(1年間の生産量の約1/4、1日に約20万本)を選花・集荷します。また、個々のカーネーション生産者も盛んに収穫・選花を行い、市場へ出荷を行います。

今年のカーネーションは、秋の気温が高かったことから生育が前進し、反動で冬以降の出荷量が減少。ピーク時近くまで出荷量は前年を下回りそうです。病害虫の被害は少なく、品質の高いものが出荷できそうです。

(作柄は今後の気候により変動しますのでご了承ください)



JAの選花施設の風景
パート選花員が花を切りそろえ、
箱詰めする



カーネーションを収穫する生産者
需要の多いこの時期にあわせて
多く出荷できるよう調整しています



赤いカーネーション「エクセリア」
贈り物の定番として愛されています

西尾市のカーネーション生産概要 (2015年度)

生産規模：48人・約21ヘクタール

生産量：約2,280万本(見込み)、317種類

■メディア対応日■

【日時】4月25日(月) 午前10時30分集合

【集合】JA西三河 池田センター

(西尾市一色町池田西八反21 (TEL:0563-72-9533))

※ 池田センターでの選花のほか、管内農家でのカーネーション収穫の様子をご覧いただけます(収穫風景を撮影する場合は、午前9時までに池田センターへお越しください)。

※ 収穫風景を取材される報道機関の方は、JA西三河企画課の岡田まで前日までにご連絡ください。なおご連絡のない場合、生産現場へご案内できかねる場合がございますのでご了承ください。

マメ知識:「カルメン」とカーネーション

一般的には「母の日の花」であるカーネーション。スペインやモナコ公国では国花とされ、イスラム教の寺院・モスクでは文様として使われるなど、世界的に愛されています。

スペイン・セビリアを舞台とするオペラ「カルメン」の名前の由来は「カーネーション」であるとされています。赤いカーネーションの花言葉には、母の日にちなんだ「母の愛情」のほか「熱烈な愛」といったものも。情熱の国・スペインの愛憎劇にふさわしい命名かもしれせんね。

この件に関するお問い合わせは下記までお願いします。

また、取材にお越しの際にはご一報ください。

【報道対応】JA西三河 企画課 担当：岡田

(電話：0563-56-5214)

メール：kikaku@ja-nishimikawa.com

携帯電話：070-1414-4251)

【現場担当】JA西三河 池田センター 担当：鋤柄

(電話：0563-72-9533)